

テーマ

さくらプロジェクトⅣ

目標

将来の地域の担い手としてのしなやかな感性を育む環境づくりと体験活動

1. 取組の視点

奈良市東部の里山と田畑のなかに民家が点在する柳生地区は、「剣聖の里」として全国的にも有名で、多くの史跡、伝統が残され、大切に守られてきています。柳生小・中学校は合わせても児童生徒数53名1学年1学級の小さな学校です。本事業では小・中学校の取組みを支援するとともに、地域再生のシンボルとしての摩利支天山を再生し、桜の景観復活を目指しました。

2. 取組の概要

① 環境整備活動 摩利支天山再生

摩利支天山は、地域の過疎化や高齢化が進み、地域で手入れを続けることができなくなり、学校にも独自にこの山を管理する力はなく、徐々に雑木林となりました。平成22年に、本事業が始まり地域再生のシンボルとして、地域と学校が協力して摩利支天山再生を進めることになりました。



② 伝統伝承活動

柳生中学校区では、今年度で99回目(年1回開催)を迎える大運動会を保育園、小学校、中学校、地域と合同で行っています。

また、日頃から地域の伝統である木剣体操や柳生音頭を授業に取り入れ、運動会でも毎年小中合同で演じ伝統を受け継いでいます。



3 まとめ

「地域で決める学校予算事業」で培ってきたものとして、「環境整備活動(ふるさとや自然を愛する心)」「伝統、文化の伝承活動(地域に伝わる文化や伝統を守り伝える心)」「学習支援活動(地域社会の担い手となり、仲間とともに協力しあって生きていける心)」を柳生中学校区地域教育協議会は大切にしてきました。今後も、しっかりと取り組んでいきます。

成果としては、「学校づくりへの意識の深まり」「信頼関係の深まり」「学校教育の深まり」があります。以前より柳生地域の方々は、学校に協力的でした。そんな関係から、ともに手を取り合っより良い学校づくりを目指す「協働」へと変わりつつあります。

また、学校の先生方だけでは教えきれない地域に伝わる文化や伝統を次世代に受け継ぎ、柳生の子どもたちの教育を充実させることができました。

4 来年度に向けて

来年度に向けての課題として、現在の事業は特定の方々に依存しています。地域の活動も多く負担が大きくなっています。状況や年齢も考えれば、今後の活動を見越してさらに多くの人材の確保が必要となってきています。

テーマ

ESDの視点を核にした多様な体験活動の展開

目標

地域資産や外部人材を活用し、本物に触れる体験学習やユネスコスクールとしての活動を行うことで地域の担い手を育てる。

今年度の取組紹介

○ニッポンバラタナゴ里親プロジェクト

近畿大学と提携した取組は今年度で3年目を迎え、昨年度の課題を踏まえて池の改修や整備を行い、継続的に観察ができました。自然に親しみ、観察や手入れなどの活動を通して生物のつながりや命の営みを考える学習ができたと考えています。

今年度は5回の取組を実施しました。1回目は4月に河川調査・生物採取等の活動、2回目は6月に稚魚観察会・近畿大学生の報告、3回目は8月に成長観察会を実施しました。

300匹前後確認され、みんなで喜びました。ところが台風18号の大雨で生態園のバラタナゴが流されてしまい、稚魚を含め20匹しか残らず、本当にみんなで残念な思いをしました。自然の猛威の恐ろしさを感じました。

4回目の11月の観察会では、ビデオトープの池干し・個体調査を実施しました。5回目は、3月初旬に活動報告を実施しました。今後も、バラタナゴの繁殖を継続して取り組んでいきたいと思っています。定期的に大学の先生や大学生の授業も受けることができ、多様な学びの機会となりました。



今年度のまとめ

・外部指導者による本物に触れる体験学習の充実と地域遺産や伝統文化などを学習することにより、生徒に自信と地域への誇りを育むことを目指して取り組みました。その成果があったと思います。

また、中学生だけでなく、小学生にも呼びかけをして共に学習する機会を持つことで地域との協働・小中一貫教育の推進を図ることができました。本物に触れる体験活動で具体的には、環境学習としてニッポンバラタナゴ里親活動・地域学習の深化として地域の歴史を学び、自分たちで計画を立て調べ学習や現地学習を通じ世界遺産学習を深めることができました。伝統文化では日本剣道形、和楽器体験学習（琴）を通して習得・体験する学習ができました。人権学習・キャリア教育では、障がい者福祉施設を訪問し職業体験とダンスなどを通して入所障がい者の方々と交流を深めることができ、学ぶことが多くありました。星空観察では、小・中学生が大人と一緒に学ぶ機会を持つことができました。

来年度に向けて

・本物に触れる体験学習は、本校ならではの機動性を生かして全校体制での取組ができました。来年度、生徒が少し増えます。地域の歴史や自然の再発見・再評価する取組を地域の方々の協力を得て、継続させながら、この取組を生徒の手でも発信し、学校の存在感や元気を地域にアピールしていきます。

テーマ

「いきいき・わくわく・元気な柳生っ子」

目標

柳生のよさを知り、柳生を誇りに思う子どもを育てる

今年度の取組紹介

○柳生らしさを体で学ぶ

子どもの時の体験は、一生の宝です。剣道という先人から柳生に引き継がれてきたことを、子どもたちは、体験を通して学んでいます。春から、竹刀を使い、「面、小手、胴」を打つ木剣体操を行います。第99回柳生地区大運動会では、地域の方に見ていただき、子どもたちが気合いを入れて竹刀を振る姿に、なつかしく思っていたり、頼もしく感じていただくことができました。

冬には、地域の柳生剣友会、柳生中学校、保護者のご協力で『剣道大会』（今年度は第44回大会）を2月の厳寒の時期に行いました。試合に先立って、10時間の稽古を行いました。寒さが厳しい中で、柳生の誇りである剣道の稽古により、子どもたちの心・技・体は鍛えられました。

また、地域の歴史を学ぶ「柳生歴史教室」を行いました。本年は、「柳生一族、一刀石、十兵衛杉」のを中心に教えていただきました。子どもたちは普段目にしている名所に、その歴史的意義を改めて感じることができました。剣道の体験と地域理解とを連動させた取組で、相乗効果が高いです。



今年度のまとめ

- ・柳生歴史教室を行った後に、ある児童は、「柳生歴史教室で、柳生のすばらしさと柳生一族のすごさが分かりました。柳生宗矩や十兵衛は、弟子を何千人ももっていたり、柳生新陰流をつくったりしてすごいなあと思いました。もっと知りたくなりました。」と、感想を綴っています。他の児童も、『柳生』に生まれ育ってきたことを実感することができ、今まで以上に自分たちの郷土を誇りに思う気持ちが強くなったように思われます。
- ・柳生剣友会の方々にお世話になり、第44回の剣道大会を開くことができました。木剣体操や剣道練習といった年間を通した取組で、柳生の歴史を体で学ぶことができました。そして、心身の鍛練や礼節等様々な力を身につけることができました。それは、剣道以外のことでも活かされると思われます。

来年度に向けて

- ・本事業の計画や目標等を、学校便りや地域広報誌等で保護者や地域の方々に伝えていきます。そうすることで、更なる協力や支援を要請します。さらに、地域の人々と触れ合うことで、先人の知恵や歴史、自然、文化等を体験的に学ばせていこうと考えています。
- ・地域人材の更なる発掘や若い世代への協力を要請し、新しい取組も展開します。